

# 3R活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

年 次 報 告 書

令和5年度版（2023年度版）



令和6年6月

3R・資源循環推進フォーラム

（旧：3R活動推進フォーラム）



20世紀に本格化した大量生産・大量消費型の経済は、大量廃棄社会を生みだし、物質循環を阻害するだけでなく気候変動問題を加速させています。そればかりでなく、世界の人口増加、経済発展等に伴う資源需要の拡大と相まって、天然資源の枯渇、大規模な資源採取による生物多様性の破壊など、様々な問題を引き起こしています。

資源循環分野においては、大量廃棄を前提とした直線的で一方的な経済（リニアエコノミー）から、資源や製品を様々な段階で循環させ環境負荷を軽減しつつ、経済の発展と成長を実現させる循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行が、近年の世界的な潮流となっています。

欧州委員会は、循環経済への移行なくして 2050 年カーボンニュートラルは達成できないとの見方から、「循環経済への移行」は気候変動問題とも密接に関わる課題ととらえており、令和 5 年の G7 広島サミットの首脳コミュニケでも、「循環経済への移行」は、気候変動、生物多様性の保全と並んで、行動を強化すべき分野として位置付けられました。

我が国では、循環型社会形成推進基本法の下、製品別の個別リサイクル法を組み合わせる形で、「循環型社会」を目指して 3 R（リデュース・リユース・リサイクル）の取組が進められてきました。施策の方針や具体的な内容は基本法に基づく基本計画で定められており、現行の「第四次循環型社会形成推進基本計画」は平成 30 年に策定されました。

令和 3 年 10 月に改訂された地球温暖化対策計画の中では、温暖化対策の基本的考え方として、3 R + Renewable（再生材利用等）を始めとする循環経済への移行を大胆に実行する旨が明記されました。加えて、令和 4 年 4 月から、プラスチックのライフサイクル全般での“3 R + Renewable”によって循環経済への移行を加速する「プラスチック資源循環法」が施行されています。令和 4 年 9 月には、環境省において、2050 年を見据えて目指すべき循環経済の方向性と 2030 年に向けた施策の方向性が、循環経済工程表として公表されました。

令和 5 年 10 月には、中央環境審議会から環境大臣へ、循環型社会形成推進基本計画の策定のための具体的な指針が意見具申され、循環経済へ移行することは、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブへの貢献のほか、産業競争力強化、経済安全保障、地方創生にも資することが示されました。これを踏まえ、第五次循環型社会形成推進基本計画は、令和 6 年の見直しに向けて策定作業が進められています。

こうした 3 R、資源循環、循環経済を巡る状況が目まぐるしく変化するなか、当フォーラムは、総会の議を経、令和 6 年 4 月に、組織の名称を「3 R 活動推進フォーラム」から「3 R・資源循環推進フォーラム」に改め、市民や事業者の皆様、行政、研究機関が一体となったプラットフォーム機能を強化して、これまで以上に、環境省をはじめとする府省や、会員の皆様との連携を強化し、幅広いステークホルダーが情報共有、相互連携できることを目指すこといたしました。

こうしたプラットフォーム機能を発展・拡充するために、従来の発想を超えた新たな取組などを行っていきますので、一層のご支援、ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

本報告書は、令和 5 年度の 3 R 活動推進フォーラム（現 3 R・資源循環推進フォーラム）の事業活動等について取りまとめたもので、会員の皆様をはじめ 3 R・資源循環に係る関係者の皆様の今後の業務の参考になれば幸いです。

令和 6 年 6 月  
3 R・資源循環推進フォーラム 会長 細田 衛士



## 目次

---

I 組織運営	1
1. 理事会・総会	1
2. 企画・運営委員会	3
II 令和5年度事業概要	5
1. 3R推進全国大会及び関連事業(令和5年度3R 推進企画運営業務)	5
2. 連携・協働事業	21
3. 実務講座・相談事業	29
4. 広報普及事業	32
5. 令和5年度収支決算	38
III 3R活動推進フォーラムについて	41
1. 「3R活動推進フォーラム」の沿革～ごみ減量化から3Rへ～	41
2. 3R活動推進フォーラム事業活動	42
3. 3R活動関係年表	43
4. 令和5年度事業年間スケジュール	47
5. 3R活動推進フォーラム規約等 資料	50
6. 役員一覧	52
7. 企画・運営委員会委員一覧	53
8. 会員一覧	54



# I 組織運営

## 1. 理事会・総会

### ① 第 18 回 理事会・総会 開催概要

第 18 回理事会及び総会は、2023 年 6 月 19 日(月)に日比谷国際ビルディングコンファレンススクエア 8 階 8 D 会議室（東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 - 3）とオンラインのハイブリット開催形式で、合同で開催された。水谷努環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長・リサイクル推進室長をはじめ関係各省の出席の下開催され、令和 4 年度事業報告（案）、令和 5 年度事業計画（案）などの議案を承認するとともに、理事及び監事を選出した。

#### (1) 挨拶

##### ○細田衛士 3 R 活動推進フォーラム会長

- ・役員の皆様などを実際に迎えて理事会・総会を開催するのは令和元年以来 4 年ぶりとなる。出席者の皆様をはじめ、会員の皆様に感謝する。
- ・3 R 活動推進フォーラムは発足して 18 年目を迎えた。当フォーラムの会員は地方自治体と民間団体で構成されている。現在自治体会員は 47 都道府県、9 政令指定都市、10 特別区、11 市、あわせて 77 会員。また、民間団体会員は 65 会員で、公民あわせて 142 会員となった。環境省からも新たに設立された団体などに加入の呼びかけをいただき、改めて御礼申し上げる。当フォーラムも引き続き政令指定都市等の入会を推進していく。
- ・当フォーラムでは毎年 3 R 推進全国大会の開催のほか、3 R 促進ポスターコンクールの実施などを中心に 3 R 活動の普及啓発に努めている。昨年度の第 16 回 3 R 推進全国大会は、10 月 27 日（木）に新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、都内の東京ウィメンズでの会場とオンラインにより開催した。今年度の第 17 回大会は、10 月 25 日（水）に「あきた芸術劇場ミルハス」で環境省、環境省東北地方環境事務所、秋田県、当フォーラムの主催により開催する。今年度も皆様にご協力をいただき成功させて参りたい。また、当フォーラムでは会員団体の皆様との連携・協働事業に注力している。昨年度はWEB を活用しセミナー等を 12 回開催した。今年度は、プラスチック資源循環法、資源循環の促進や循環経済の普及をテーマとした連携・協働事業のほか、新たに若年層を対象としたワークショップなどを予定している。
- ・本日は事業報告・決算及び事業計画・予算のほか、今後のフォーラムのあり方などについても審議いただきたい。

##### ○水谷努環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長・リサイクル推進室長

- ・昨年 9 月に環境省で循環経済工程表を取りまとめた。内容は多岐に渡るが、大きなポイントをいくつか申し上げる。カーボンニュートラルを実現する観点からも極めて重要なプラスチックは、昨年 4 月にプラスチック資源循環促進法が施行され、認定制度も本格的に動き始めた。この大きな流れをさらに太く加速させていきたい。金属リサイクルは、経済安全保障の観点からも重要な課題。国内外含めて資源の確保とリサイクルが重要で、東南アジア 5 か国で金属資源回収とリサイクルに向けた調査を開始している。太陽光パネルは、2030 年以降大量排出が見込まれており、環境省と経済産業省で 4 月から再生可能エネルギー発電設備の廃棄・リサイクルのあり方に関する検討会を開催しているところ。年内のとりまとめに向けて論点整理をしていきたい。ファッション分野では今年の 1 月から環境省と経済産業省で纖維製品における資源循環システム検討会を立ち上げ検討作業を行っており、夏頃に取りまとめを予定している。
- ・経済産業省の、成長志向型の資源自律経済戦略は今年 3 月末にまとまり、今後産官学民で連携してパートナー

シップ、プラットフォームを作っていく話もある。国土交通省、農林水産省含めて政府全体で進めていかなければならぬし、自治体、企業の皆様にもご参画いただき、デジタル分野含めて様々な検討をこれから進めていかなければならない。

- ・環境省では、循環型社会形成推進基本計画が見直しの時期を迎えており、次の計画策定に向けて中央環境審議会循環型社会部会で検討をスタートしている。前回の改定以降、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーなど様々な大きな動きが出ている。こうした動きや先進事例を取り込みながら、令和6年6月頃の閣議決定に向けて策定を進めていく。
- ・今年の秋には秋田県で、久しぶりに地方で対面での3R推進全国大会が開催される。ぜひこの大きな流れを推進する機会として、活用していければと思っている。

#### (2) 来賓（敬称略）（敬称略、〔オ〕はオンラインにてご出席）

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長・リサイクル推進室長	水谷努
環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室 室長補佐	小花和稔
環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室	加藤正良
農林水産省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐	石尾尚司〔オ〕
農林水産省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室	磯部佳孝〔オ〕
経済産業省産業技術環境局資源循環経済課 企画調整係長	水上智弘
国土交通省総合政策局公共事業企画調整課課長補佐	本村信一郎
国土交通省総合政策局公共事業企画調整課企画第二係	田中幹

#### (3) 出席

##### ○役員

19名中 会場出席者9名、オンライン出席者1名 欠席者9名のうち7名が委任状を提出

##### ○会員

142会員中 会場出席17会員、オンライン視聴および欠席者のうち88会員が委任状を提出

#### (4) 議事

第1号議案 令和4年度事業報告（案）及び令和4年度収支決算報告（案）

第2号議案 令和5年度事業計画書（案）及び令和5年度収支予算（案）

第3号議案 理事及び監事の選任（案）

#### (5) その他

次期第17回3R推進全国大会開催地である秋田県の大門洋 秋田県生活環境部環境整備課課長による挨拶が行われた。

##### ②第19回理事会 開催概要

第19回理事会は、書面による決議を行い、理事及び監事に審議を賜り 令和6年3月18日に理事会の決議をもって原案を可決した。

## 【議事】

### (1) 審議事項

- |       |  |
|-------|--|
| 第1号議案 | 3R活動推進フォーラムの活動内容及び名称の変更並びにそれに伴う規約の一部改正等について（案） |
| 第2号議案 | 「(仮称) 3R・資源循環推進フォーラム」令和6年度事業計画（案）              |
| 第3号議案 | 第19回総会を書面により開催する提案（案）                          |

### ③第19回総会 開催概要

第19回総会は、書面による決議を行い、会員に審議を賜り 令和6年3月29日に総会の決議をもって原案を可決した。

## 【議事】

### (1) 審議事項

- |       |  |
|-------|--|
| 第1号議案 | 3R活動推進フォーラムの活動内容及び名称の変更並びにそれに伴う規約の一部改正等について（案） |
| 第2号議案 | 「(仮称) 3R・資源循環推進フォーラム」令和6年度事業計画（案）              |
| 第3号議案 | 理事の選任について（案）                                   |

## 2. 企画・運営委員会

### ① 令和5年度第1回

#### (1) 開催概要

令和5年度企画・運営委員会（第1回）を公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室とオンライン（Microsoft teams）のハイブリット形式で開催した。委員会では、環境省をはじめ関係省庁に出席いただき、今後の事業の在り方等について意見交換を行った。

開催日時： 令和5年7月31日（月）9:30～11:00

開催場所： 公益財団法人廃棄物・3R研究財団 8階大会議室

開催内容：

開会 3R活動推進フォーラム事務局長 平 久

挨拶 3R活動推進フォーラム副会長 梶原 成元

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 近藤 亮太 氏

委員・オブザーバー紹介

議事 鬼沢委員長

1. 令和4年度3R活動推進フォーラム企画・運営委員会活動報告について
2. 3R活動推進フォーラムの成果と今後の取組について
3. その他

閉会 3R活動推進フォーラム事務局長 平 久

## (2) 出席

16名中 会場出席者6名、オンライン出席者10名

### ② 令和5年度第2回

#### (1) 開催概要

令和5年度企画・運営委員会（第2回）は、書面による決議を行い、委員に審議を賜り令和5年12月22日に委員会の決議をもって原案を可決した。

#### 【議事】

##### (1) 審議事項

第1号議案 3R活動推進フォーラムの今後の活動の進め方について（答申案）

### ③ 令和5年度第3回

#### (1) 開催概要

令和5年度企画・運営委員会（第3回）を公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室とオンライン（Microsoft teams）のハイブリット形式において開催した。委員会では、環境省をはじめ関係省庁に出席いただき、今後の事業の在り方等について意見交換を行った。

開催日時： 令和6年3月7日（木）10：00～12：00

開催場所： 公益財団法人廃棄物・3R研究財団会議室 / オンライン開催（Microsoft teams）

開催内容：

- ① 開会 平事務局長
- ② 挨拶 3R活動推進フォーラム副会長 梶原 成元
- ③ 委員・オブザーバー紹介
- ④ 議事 鬼沢委員長
  1. 令和5年度事業報告（案）について
  2. 今後の活動の進め方「答申」等（報告）について
  3. （仮称）「3R・資源循環推進フォーラム」令和6年度事業計画（案）について
  4. その他
- ⑤ 閉会 梶原副会長

#### (2) 出席

15名中 会場出席者6名、オンライン出席者9名

## II 令和5年度事業概要

3R活動推進フォーラムは、循環型社会の形成・3R推進のため、環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室等の関係者のもと、国内における普及啓発事業を実施している。

令和5年度は環境省や秋田県等と連携して第17回3R推進全国大会を秋田県で開催した。また、各種セミナー・シンポジウムを全国各地で9回開催したのをはじめ、環境省等と3R促進ポスターコンクールなどを実施したほか、環境美化活動への参加、メールマガジンや事務局通信の配信等の広報・普及事業を実施した。

### 1. 3R推進全国大会及び関連事業(令和5年度3R推進企画運営業務)

#### (1) 第17回3R推進全国大会

環境省、3R活動推進フォーラムの主催による「第17回3R推進全国大会」は、10月25日（木）13時から、秋田県あきた芸術劇場ミルハスで開催した。

第I部の大会式典では、循環型社会形成推進功労者、3R促進ポスター最優秀賞の表彰を行った。

第II部の記念シンポジウムでは、「循環型社会の実現に向けた共創とイノベーション～2050年カーボンニュートラルの実現に向けて～」をテーマに、プラスチック資源循環促進法や循環経済工程表の情報提供、循環型社会の形成に向けて3R推進の必要性、今後の3R推進方策に関する理解を深めるため講演とパネルディスカッションを行った。

関連イベントとして幅広い関係者による3R・循環型社会形成の取組を紹介する展示コーナーや施設見学会を実施した。

また、開催終了後に第17回3R推進全国大会の紹介ページからYouTube動画でアーカイブ配信を開始した。

開催日時：2023年10月25日（水）13:00～16:30

開催拠点：あきた芸術劇場ミルハス（〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町2-52）

開催主体：第17回3R推進全国大会実行委員会

（環境省、環境省東北地方環境事務所、秋田県、3R活動推進フォーラム）

参加者：236名

プログラム：敬称略

◇第I部 大会式典 13:00～14:00

- ・開会挨拶 主催者挨拶（環境省、秋田県、3R活動推進フォーラム）
- ・表彰式

循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

3R促進ポスター最優秀賞表彰

- ・記念撮影

◇第II部 記念シンポジウム 14:20～16:30



・基調講演

「3 R・循環経済の加速化に向けて」

3 R活動推進フォーラム会長、東海大学副学長・政治経済学部経済学科教授、

慶應義塾大学名誉教授 中部大学名誉教授 細田衛士

・パネルディスカッション

「循環型社会の実現に向けた共創とイノベーション」

(コーディネーター) 3 R活動推進フォーラム副会長、

特定非営利活動法人 持続可能な社会をつくる元気ネット顧問 崎田 裕子

(パネリスト)

秋田エコプラッシュ株式会社 専務取締役 小泉 剛

認定特定非営利活動法人 環境あきた県民フォーラム理事長 佐藤 充

総合地球環境学研究所教授 浅利 美鈴

秋田県生活環境部環境整備課長 大門 洋

環境省環境再生・資源循環局循環型社会推進室長 近藤 亮太



◇関連イベント

3 R推進展示コーナー

・令和5年度3 R促進ポスターコンクール入賞作品コーナー



・循環型社会形成に関する先進的な取組の展示コーナー

循環型社会形成に関する先進的な取組を進められている団体活動を公募し、紹介するコーナーにおいて、主催者をはじめ、自治体、関連団体等 24 団体の展示がおこなわれた。



※順不同

- 環境省
- 秋田県生活環境部温暖化対策課
- 秋田県産業労働部クリーンエネルギー産業振興課
- 3R 活動推進フォーラム
- リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
- NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット
- 3R 推進団体連絡会
- ガラスびん 3R 促進協議会
- PET ボトルリサイクル推進協議会
- 紙製容器包装リサイクル推進協議会
- プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
- スチール缶リサイクル協会
- アルミ缶リサイクル協会
- 飲料用紙容器リサイクル協議会
- 段ボールリサイクル協議会
- 秋田エコプラッシュ株式会社
- 認定 NPO 法人環境あきた県民フォーラム
- 株式会社ナチュラルエナジージャパン
- ユナイテッド計画株式会社
- DOWA エコシステム株式会社
- 長野県
- 公益社団法人食品容器環境美化協会
- 一般社団法人全国容器循環協議会
- 一般社団法人プラスチック循環利用協会

・施設見学会

A AOW風みらい館（秋田洋上風力発電株式会社）



B 秋田バイオガス発電（株）ナチュナルエナジージャパン



(2) 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の推薦

循環型社会形成推進功労者を表彰する制度は、廃棄物の発生量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の適切な推進に顕著な功績があった個人、企業、団体を表彰し、その功績をたたえるとともに、循環型社会の形成の推進に資することを目的に、毎年環境省が実施しているもので、令和5年度は全国で3R活動優良企業5件、3R活動推進功労団体5件、3R活動推進功労個人1件、合計11件が受賞した。表彰式は第17回3R推進全国大会式典の席で行われた。（結果については表1）

なお、3R活動推進フォーラムでは平成18年度から環境省に対して推薦を行っているが、令和5年度は3R活動推進フォーラムからの推薦はなかった。



表 1

## 3 R活動推進功労個人

都道府県	氏名等	功績内容
宮崎県	詠田 トキ子	環境問題に取り組む市民団体を設立する等、約30年にわたり県内の環境問題への取組を支え、現在も環境アドバイザーとして県内に出前講座等を実施。平成30年からは宮崎県4 R推進協議会会長に就任し、県内の4 Rの普及に大いに尽力した。

## 3 R活動推進功労団体

都道府県	氏名等	功績内容
秋田県	炭やきで夕日の松原まもり隊	平成14年から秋田県立大学周辺の松林において、松くい虫が寄生する枯木を探索し、伐採、炭化している。できた炭は参加者等への配布や道の駅で販売している。活動の継続により松枯れ被害量は減少する成果を上げている。
東京都	一般財団法人杉並正用記念財団	本団体は、昭和40年代、杉並清掃工場の建設に関連して起きた「東京ごみ戦争」の当事者が母体。設立の昭和55年から、近隣小学校を対象とした環境作品展の実施、さらに地域の環境保全やコミュニティの維持などで功績をあげている。
奈良県	特定非営利活動法人関西ワンドイッシュエイド協会	平成18年から活動を開始し、平成20年からは毎月もったいない食器市を200～300人の参加者で開催し、生駒市や奈良市との協働事業に発展した。また、食品加工施設から排出されるサツマイモの端材の商品化を進めるなど、食品ロス削減の取組も実施している。
熊本県	一般社団法人BRIDGE KUMAMOTO	平成28年の熊本地震の被災地家屋で使用されたブルーシートを再利用して、デザイン性の高いトートバッグを、被災した縫製工場や就労継続支援事業所で製造してもらい販売している。売上の一部を被災の支援団体へ寄付するとともに、活動を全国の被災地域に広めている。
熊本県	熊本農業高校畜産科養豚プロジェクト	平成28年から、近隣の食品企業の協力のもと食品廃棄物を利用して、豚の発育段階に応じたエコフィード（飼）を開発。企業と畜産農家の仲介役を務め、令和2年からは14軒の畜産農家にエコフィードを提供。食品廃棄物を年間250トン削減し、飼料経費の削減による所得向上に貢献している。

## 3 R活動優良企業

都道府県	氏名等	功績内容
青森県	カットショップショーン	平成9年の美容院の開店時から、施術方法の見直しによる薬剤の使い過ぎの防止、容器包装の簡素化した商品を使用し、お客様へも推奨をしている。さらに、希望したお客様の頭髪をヘアドネーションへ寄付する等、お客様も巻き込みながら廃棄物減量に取り組んでいる。
秋田県	エコシステム秋田株式会社	平成30年度より東北地方等で排出されるリチウムイオン電池を入れ、熱処理、破碎、選別により、アルミ、鉄、銅や、コバルト、ニッケル、リチウム含む黒色粉体を回収している。
京都府	株式会社斗々屋	平成29年よりごみを出さない「ゼロ・ウェイスト」を掲げた日本で初めてのスーパーマーケットを開業。繰り返し利用できるびんなどをお客様に持参、又はレンタルしていただき、量り売り形式で食品を販売するほか、ゼロ・ウェイストショップの開業サポートも実施している。
岡山県	JFE条鋼株式会社水島製造所	平成20年から、自治体が集めた使用済み乾電池を受入れ、主に鉄、マンガン、亜鉛を回収。今までに6万トンを再資源化している。また令和3年からは難処理物であるスプリングマットレスを再資源化。さらに平成30年の西日本豪雨の災害廃棄物の処理を受け入れるなど資源の有効活用と地域の復興に貢献している。
鹿児島県	株式会社丸山喜之助商店	平成19年から事業所から排出される売れ残り弁当などの食品廃棄物のたい肥化を開始。その後取組規模を拡大し、平成25年度からは、日置市市内全域の家庭を対象に生ごみのたい肥化を実施している。これまで処理した生ごみは6500tを超え、約300tのたい肥は地元自治会や農家に無償で還元している。

・表彰数の推移

年度	個人	団体	企業	合計
2023年(令和5年度)	1	5	5	11
2022年(令和4年度)	0	4	6	10
2021年(令和3年度)	0	2	5	7
2020年(令和2年度)	0	7	6	13
2019年(令和元年度)	0	6	6	12
2018年(平成30年度)	0	3	7	10
2017年(平成29年度)	1	5	10	16
2016年(平成28年度)	1	11	7	19
2015年(平成27年度)	2	5	14	21
2014年(平成26年度)	1	8	8	17
2013年(平成25年度)	4	7	10	21
2012年(平成24年度)	4	10	20	34
2011年(平成23年度)	5	11	13	29
2010年(平成22年度)	7	9	20	36
2009年(平成21年度)	5	12	21	38
2008年(平成20年度)	6	15	28	49
2007年(平成19年度)	10	13	18	41
2006年(平成18年度)	6	6	7	19

### (3) 3R促進ポスターコンクールの実施

環境省と3R活動推進フォーラムでは、循環型社会の実現に向けて、毎年「3R促進ポスターコンクール」を実施している。公募は、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中学生の部の4部門で行われ、令和5年度3R促進ポスターコンクールには、全国から合計5,312点の応募があった。環境省立ち合いのもと第一次審査会で選考された219作品の中から、各部門で最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点4部門計55点を選出した。(中学生のみ優秀賞は2点とした)。(募集状況は図2)

審査方法としては、部門ごとに優秀と思われる作品10点を各委員が無記名で選出し、それぞれの部門の得票数の高い方から最優秀賞、優秀賞、佳作とした。部門別・都道府県別の応募数は図2の通り。

① 応募作品到着 2023年8月下旬～9月8日(締め切り)



② 1次審査会(廃棄物・3R研究財団 8階大会議室)

2023年9月15日(金)



③ 2次審査会(すみだ産業会館会議室1・2)

2023年9月20日(水)



令和5年度 3R促進ポスターコンクール部門・県別応募数

都道府県	小学生低学年	小学生中学年	小学生高学年	中学生	計
北海道	1	0	0	0	1
青森県	0	0	0	0	0
岩手県	1	23	10	13	47
宮城県	11	40	31	33	115
秋田県	5	8	20	3	36
山形県	0	2	2	0	4
福島県	0	1	0	18	19
茨城県	46	127	128	51	352
栃木県	0	0	0	0	0
群馬県	22	40	41	66	169
埼玉県	124	224	238	56	642
千葉県	19	80	88	13	200
東京都	24	60	23	28	135
神奈川	27	52	58	16	153
新潟県	0	14	1	0	15
富山県	2	15	7	11	35
石川県	1	186	60	0	247
福井県	0	3	3	21	21
山梨県	0	11	7	29	47
長野県	0	17	50	10	77
岐阜県	3	14	7	5	29
静岡県	38	55	69	27	189
愛知県	239	506	517	536	1,798
三重県	0	3	1	18	22
滋賀県	1	3	1	13	18
京都府	1	7	1	0	9
大阪府	1	97	2	24	124
兵庫県	9	35	31	29	104
奈良県	0	10	3	0	13
和歌山県	1	0	0	2	3
鳥取県	0	0	0	10	10
島根県	0	0	0	0	0
岡山県	2	7	11	14	34
広島県	0	0	0	0	0
山口県	0	0	0	16	16
徳島県	0	1	2	9	12
香川県	20	64	88	41	213
愛媛県	13	46	92	31	182
高知県	0	10	0	0	10
福岡県	12	40	15	8	75
佐賀県	1	2	15	20	38
長崎県	0	0	0	0	0
熊本県	1	4	4	11	20
大分県	0	5	3	0	8
宮崎県	1	4	9	25	39
鹿児島県	1	5	11	3	20
沖縄県	0	0	1	4	5
計	627	1,821	1,650	1,214	5,312

# 3R 令和5年度3R促進ポスターコンクール入賞作品

環境省と3R活動推進フォーラムが主催する令和5年度3R促進ポスターコンクールは、5月23日から小学生低学年の部、小学生中学年の部、小学生高学年の部、中学生の部の4部門で公募が行われ、9月8日までに全国から合計5,312点の応募がありました。審査の結果、各部門で最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点が選定されました。  
(中学生の部のみ、優秀賞は2点としました)

## 最優秀賞

### ◆小学生低学年部



愛知県安城市立  
安城東部小学校 1年  
首沼 采峯さん

### ◆小学生中学年部



群馬県伊勢崎市立  
赤堀南小学校 4年  
福田 夢來さん

### ◆小学生高学年部



愛知県刈谷市立  
住吉小学校 5年  
松田 永羽さん

### ◆中学生部



熊本県南阿蘇村立  
南阿蘇中学校 3年  
吉原 ひよりさん

環境省・3R活動推進フォーラム

## 小学生低学年(1・2年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

### ◆優秀賞



愛媛県伊予郡松前町立  
松前小学校2年  
小林 莞衛さん



静岡県浜松市立  
広沢小学校2年  
渡邊 恒哉さん



愛知県安城市立  
安城南部小学校2年  
植村 歩加さん

### ◆佳作



群馬県伊勢崎市立  
宮郷第二小学校2年  
小林 寧々さん



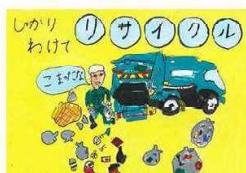
群馬県伊勢崎市立  
北第二小学校2年  
森 結加さん



愛媛県伊予郡松前町立  
北伊予小学校2年  
河野 杏さん



東京都港区立  
芝浜小学校2年  
山口 桜華さん



京都府宇治市立  
小倉小学校2年  
田中 悠誠さん



東京都北区立  
王子第一小学校2年  
清水 梨代さん



愛知県大府市立  
北山小学校1年  
石井 琴音さん



茨城県石岡市立  
東小学校2年  
上田 慶晴さん



愛知県西尾市  
八ツ面小学校2年  
小嶋 悠聖さん



埼玉県新座市立  
野寺小学校2年  
小玉 夏碧さん

## 小学生中学年(3・4年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

### ◆優秀賞



埼玉県新座市立  
野寺小学校4年  
千葉 あおばさん



静岡県浜松市立  
広沢小学校3年  
田野 成樹さん



東京都江東区立  
第四大島小学校4年  
酒井 美音さん

### ◆佳作



宮崎県延岡市立  
西小学校3年  
田中 優羽さん



兵庫県加古川市立  
平荘小学校4年  
岩本 晃夏さん



茨城県取手市立  
山王小学校4年  
齊藤 福さん



茨城県取手市立  
白山小学校4年  
石関 廉司さん



茨城県牛久市立  
ひたち野うしく小学校4年  
斎藤 幸樹さん



群馬県伊勢崎市  
あずま北小学校4年  
今泉 晴菜さん



愛知県田原市立  
中山小学校4年  
小川 菜々子さん



東京都北区立  
浮間小学校3年  
李 淑亜さん



香川県善通寺市立  
吉原小学校4年  
高橋 葵仁さん



愛知県知立市立  
知立西小学校4年  
田中 うららさん

## 小学生高学年(5・6年)の部 優秀賞・佳作入賞作品

### ◆優秀賞



群馬県館林市立  
第六小学校 5年  
五十嵐 百花さん



茨城県結城市立  
上山川小学校 6年  
深谷 瑞聖さん



埼玉県朝霞市立  
朝霞第三小学校 6年  
石津 美命さん

### ◆佳作



香川県普通寺市立  
南部小学校 5年  
宮本 花奈さん



愛知県豊田市立  
東保見小学校 6年  
梅本 てるはさん



愛知県田原市立  
清田小学校 5年  
白谷 心美さん



愛媛県松山市立  
久米小学校 6年  
福田 琴葉さん



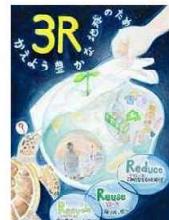
愛媛県伊予郡松前町立  
松前小学校 6年  
木村 天晴さん



茨城県下妻市立  
騰波ノ江小学校 5年  
瀬戸 左近さん



愛知県小牧市立  
小牧原小学校 6年  
笹尾 琴葉さん



愛知県小牧市立  
小牧原小学校 6年  
舟橋 良治さん



愛知県大府市立  
石ヶ瀬小学校 6年  
平間 寛汰郎さん



群馬県館林市立  
美園小学校 6年  
釜塚 遥さん

## 中学生の部 優秀賞・佳作入賞作品

### ◆優秀賞



愛知県碧南市立  
中央中学校 3年  
三河 桃華さん



愛知県刈谷市立  
朝日中学校 2年  
丹羽 菜々子さん

### ◆佳作



埼玉県上尾市立  
大石中学校 2年  
加藤 咲良さん



兵庫県川西市立  
明峰中学校 3年  
木森 奏唯さん



静岡県浜松市立  
新津中学校 1年  
山川 椎香さん



東京都文京区立  
第九中学校 3年  
山本 紫乃さん



群馬県館林市立  
第二中学校 3年  
島村 光さん



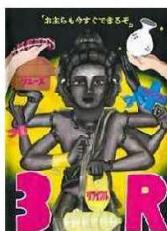
愛媛県今治市立  
日吉中学校 2年  
榊原 藍里さん



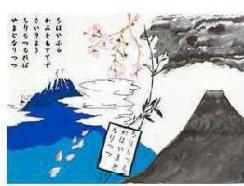
愛媛県今治市立  
西中学校 3年  
斎藤 大輝さん



岩手県盛岡市立  
土淵中学校 3年  
細越 くるみさん



香川県丸亀市立  
東中学校 3年  
大西 彩華さん



東京都墨田区立  
豊川中学校 3年  
石原 空之助さん

・総応募点数推移

	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	合計
平成19年度	2,489		5,963	3,385	11,837
平成20年度	2,467		5,137	2,558	10,162
平成21年度	1,770		4,266	3,236	9,272
平成22年度	1,682		4,041	3,208	8,931
平成23年度	1,630		3,819	3,032	8,481
平成24年度	917	2,480	3,130	3,685	10,212
平成25年度	955	2,725	3,066	3,648	10,394
平成26年度	875	2,601	3,581	3,232	10,289
平成27年度	962	2,334	3,214	3,213	9,723
平成28年度	783	2,163	2,628	2,884	8,458
平成29年度	832	2,118	2,698	3,052	8,700
平成30年度	576	1,478	1,754	1,562	5,370
令和元年度	548	1,531	1,648	1,813	5,540
令和2年度	478	1,241	1,266	1,101	4,086
令和3年度	668	1,902	2,218	1,833	6,621
令和4年度	677	1,868	1,905	1,455	5,905
令和5年度	627	1,821	1,650	1,214	5,312

(※) 平成24年から小学生を3つの学年に移行

・受賞作品 PR 例

群馬県 「こども環境白書 2024」(令和6年3月発行)に群馬県入賞作品掲載



※群馬県環境森林部 環境政策課ご提供

※愛知県 環境局 資源循環推進課 ご提供

### 資源循環推進課

#### [3R促進ポスタークール]

3Rを促進するためのポスターを公募し、優秀作品を表彰することで、国民一人一人が循環型社会のあり方を考えるきっかけとし、普及啓発に資することを目的に環境省及び3R活動推進フォーラムの主催で行われます。

※募集方法・・・

市町村広報誌等により募集されます。

#### 令和5年度3R促進ポスタークール



小学生低学年の部 最優秀賞  
安城市立安城東部小学校1年生



小学生高学年の部 最優秀賞  
刈谷市立住吉小学校5年生

◇3R活動推進フォーラムのWebページ  
<https://www.3r-forum.jp/>

### (4) 環境省主催地方セミナー

質にも着目した循環型社会の形成を図るため、3R（リデュース、リユース、リサイクル）、地域循共生環圏、食品ロス法、容器包装リサイクル法、プラスチック資源循環法、循環経済工程表等、脱炭素社会との統合的な取組を踏まえ、都道府県等の地方自治体、事業者団体、NPO/NGO等と連携して環境省主催3R推進地方セミナーを開催した。

地方セミナーでは、3Rの取組や循環経済に関する最新の情報や成功事例を共有し、地方自治体や事業者団体の交流を促進することを目的とした。

#### ① 「さいたま市の食品ロス削減に向けた取組」(さいたま市)

開催日時：2023年11月20日（月）13:30～16:30

開催拠点：埼玉会館7A会議室（埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4）

開催主体：環境省、さいたま市、3R活動推進フォーラム

参加者：45名

プログラム：

13:30	開会挨拶 環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 室長補佐 金井 信宏 氏
13:35	基調講演 環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 室長補佐 金井 信宏 氏 「地域における食品ロス削減の実践」
14:30	休憩
14:40	事例発表 1 さいたま市役所環境局資源循環推進部資源循環政策課 永堀 恵 氏 「さいたま市食品ロス削減プロジェクト！！」
15:10	事例発表 2 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 鬼沢 良子 氏 「若い世代の声を聴いて食品ロス削減へ～自治体・企業・大学と連携して～」
15:40	事例発表 3 学校法人早稲田医療学園 人間総合科学大学 事務局長 井上 雅之 氏 「自治体と連携した食品ロスへの取り組み」
16:00	閉会挨拶 3R活動推進フォーラム事務局

② 「プラスチックリサイクルの取組」(岩手県)

開催日時：2023年1月22日（月）13:30～16:30

開催拠点： マリオス188会議室(盛岡市盛岡駅西通二丁目9-1)

開催主体：環境省、岩手県、3R活動推進フォーラム

参加者：49名

## プログラム：

13:30	開会挨拶 環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 室長補佐 辻 景太郎 氏
13:35	基調講演 環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 室長補佐 辻 景太郎 氏 「プラスチック資源循環法の概要と最近の動向」
14:30	休憩
14:40	事例発表 1 仙台市環境局廃棄物事業部廃棄物企画課長 向井 晃之 氏 「製品プラスチック一括回収・リサイクルについて」
15:10	事例発表 2 稻城市都市環境整備部生活環境課長 渡邊 瑞 氏 「プラスチックごみ一括回収の取り組みについて」
15:40	事例発表 3 ニッコー・ファインメック株式会社 取締役専務 熊谷 裕徳 氏 「プラ新法～プラスチックの再資源化を一関市と共に！」
16:00	質疑応答

## 2. 連携・協働事業

### (1) 3 R推進団体連絡会との共催による容器包装交流セミナー

プラスチック資源循環法が施行され、プラスチックの一括回収が始まり、3 R推進団体連絡会と3 R活動推進フォーラムは、3 R・循環経済をテーマにNPO団体、事業者、自治体などのステークホルダーが一堂に会し、主体間の信頼と連携・協働の輪が大きく広がることを期待し、全国各地でセミナーを開催した。3回開催終了後に「容器包装セミナー報告書2023」を作成し全国の自治体に配布した。

#### ① 第25回 容器包装交流セミナー in 札幌



開催日時：2023年7月13日（木）13:00～16:45

開催拠点： 札幌駅前ビジネススペース2A、2E

開催主体：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

参加者：46名

プログラム：（敬称略）

13:00～13:10 【開会挨拶】

3R推進団体連絡会 幹事長 田中希幸

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 室長補佐 矢野克典

北海道環境生活部環境保全局 循環型社会推進課長 本間博人

13:10～13:55 【事例報告】

札幌市環境局環境事業部 循環型社会推進課長 末永保範

北海道容器包装の簡素化を考える会

（NPO法人環境り・ふれんず代表理事・3R推進マイスター） 石塚裕江

3R推進団体連絡会 幹事 久保直紀

13:55～14:25 容器包装の資源循環・3Rに関する情報交換

14:25～16:30 3グループに分かれて意見交換

16:30～16:45 意見交換まとめ

16:45 【閉会挨拶】3R活動推進フォーラム 事務局長 平久

## ② 第26回 容器包装交流セミナー in 松江



開催日時：2023年11月8日（水）13:00～16:45

開催拠点：くにびきメッセ 501会議室

開催主体：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

協力：島根県、松江市、特定非営利活動法人コアラッチ

参加者：45名

プログラム：(敬称略)

13:00～13:10 【挨拶】

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 係長 喜久川裕起

島根県 環境生活部長 西村秀樹

3R推進団体連絡会 幹事長 田中希幸

13:10～13:55 【事例報告】

松江市環境エネルギー部 環境対策課長 長谷川和弘

特定非営利活動法人コアラッチ 理事長 常國文江

3R推進団体連絡会 幹事 久保直紀

13:55～14:25 容器包装の資源循環・3Rに関する情報交換

14:25～16:30 3グループに分かれて意見交換

16:30～16:45 意見交換まとめ

16:45 【閉会挨拶】 3R活動推進フォーラム 事務局長 平久

③ 第27回 容器包装交流セミナー in 宇都宮



開催日時：2024年2月21日（水）13:00～16:45

開催拠点：ライトキューブ宇都宮4階 401～403 会議室

開催主体：3R推進団体連絡会、3R活動推進フォーラム

協力：宇都宮市

後援：栃木県

参加者：48名

プログラム：(敬称略)

13:00～13:10 【挨拶】

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室兼循環型社会推進室 室長補佐 辻景太郎

3R推進団体連絡会 幹事長 田中希幸

13:10～13:55 【事例報告】

宇都宮市環境部ごみ減量課長 三代浩嗣

NPO団体 De nada（デナダ）代表 増渕弘子

3R推進団体連絡会 幹事 久保直紀

13:55～14:25 容器包装の資源循環・3Rに関する情報交換

14:25～16:30 3グループに分かれて意見交換

16:30～16:45 意見交換まとめ

16:45 【閉会挨拶】 3R活動推進フォーラム 事務局長 平久

## (2) 一般社団法人持続可能環境センターとの連携

環境が将来にわたって持続するよう、家庭・企業・コミュニティ等において必要な知見を共有化するとともに、活動の輪を広げるための教育・人材の育成等を支援することにより、持続可能な地域社会づくりに貢献する目的で加入している。

### ① 持続可能環境センター（3R・低炭素社会検定）総会・運営委員会

開催日時：2023年6月16日（金）16:00～17:30

開催拠点：持続可能環境センター新事務所

およびオンライン（ZOOM）併用

開催主体：一般社団法人持続可能環境センター事務局

内容：2022年度決算、第16回検定・今後の進め方について 役員改選他

### ② 持続可能環境センター運営委員会

開催日時：2023年9月27日（水）10:00～12:00

開催拠点：持続可能環境センター事務所

およびオンライン（ZOOM）併用

開催主体：一般社団法人持続可能環境センター事務局

内容：第16回検定の進捗について、次年度以降の検定について 他

③ 第16回 3R・低炭素社会検定試験講習開催 運営業務（関東地区：東京会場）

開催日時：2023年10月15日（日）

3Rコース 9:30～12:30

低炭素社会コース 13:30～16:30

開催拠点：東京会場

（公財）廃棄物・3R研究財団 会議室

開催主体：3R・低炭素社会検定 検定事務センター



④ 第16回 3R・低炭素社会検定試験開催 運営業務（関東地区：東京会場）

開催日時：2023年11月12日（日）

開催拠点：有明セントラルタワー ホール&カンファレンス 定員120名

開催主体：3R・低炭素社会検定 検定事務センター

受験者：午前61名 午後61名



（3） 公益財団法人日本環境協会 こどもエコクラブ全国事務局との連携

時代を担う子どもたちのコミュニケーションの能力、課題発見、解決能力、多様性を受容できる力、新しい価値を生み出す力など「未来を創る力」を育む活動を支援することにより、持続可能な地域社会づくりに貢献する目的で加入している。

令和5年度は、3R促進ポスターコンクール募集の掲載協力依頼などを行った。

## 令和5年度3R促進ポスターコンクール募集の掲載協力



### (4) リデュース・リユース・リサイクル推進協議会との連携

#### ① 循環・3Rリレーセミナー～異業種連携による資源循環の取組～

サーキュラーエコノミーに向けた資源循環の動向について、基調講演、省庁の施策、実践事例を共有することにより、より高度な資源循環を目指す団体・企業・自治体・NPOなどが次のステップを進めるヒントを提供する目的で開催した。

開催日時：2024年2月16日（金）13:30～17:00

開催拠点：AP 東京八重洲 X ルーム / オンライン（Microsoft teams）

開催主体：3R活動推進フォーラム、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

参加者：計 78 名（会場参加 16 名、オンライン参加 62 名）

プログラム：(敬称略)

- 13:30 開会挨拶 3 R 活動推進フォーラム 専任理事 宇仁菅伸介
- 13:35 基調講演 「サーキュラーエコノミー～新しい連携協力のあり方～」  
3 R 活動推進フォーラム会長 兼 リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会长  
(東海大学副学長・政治経済学部経済学科教授、慶應義塾大学名誉教授、中部大学名誉教授)  
細田 衛士
- 14:05 話題提供 1 「環境省における CE に向けた取組み」  
環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長 近藤 亮太
- 14:30 話題提供 2 「農林水産省における資源循環の取組」  
農林水産省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課食品ロス・リサイクル対策室  
課長補佐 石尾 尚司
- 14:55 休憩
- 15:05 話題提供 3 「成長志向型の資源自律経済戦略と今後の資源循環経済政策」  
経済産業省産業技術環境局資源循環経済課長 田中 将吾
- 15:30 事例報告 1 「ラベル台紙の水平リサイクル「資源循環プロジェクト」」  
日榮新化株式会社 企画開発室 専任課長 本池 高大
- 16:00 事例報告 2 「高岡市脱炭素先行地域の太陽光パネルで奏でる Circular Economy」  
ハリタ金属株式会社 代表取締役 張田 真
- 16:30 質疑応答
- 16:50 講評 細田 衛士
- 17:00 閉会挨拶 3 R 活動推進フォーラム副会長 梶原 成元

(5) 廃棄物・3 R 研究財団&3 R 活動推進フォーラム年次報告会

令和5年度の廃棄物・3 R 研究財団及び3 R 活動推進フォーラム主催の年次報告会にて、3 R 活動推進フォーラムの活動報告と今後の方向性について報告をした。

開催日時：2023年10月31日（火）13:10～16:10

開催拠点：K F Cビル（第一ホテル両国直結10階 Room101～103）

開催主体：公益財団法人廃棄物・3 R 研究財団、3 R 活動推進フォーラム

参加者：会場参加48名 オンライン参加60名 計108名

## (6) スチール缶リサイクル協会との連携

### ①2023年度第1回散乱防止・美化キャンペーン

2023年度第1回目の「散乱防止・美化キャンペーン」として宮城県仙台市荒浜海岸で海岸清掃を行った。清掃活動終了後は、JR仙台駅ペデストリアンデッキに移動し、ポイ捨て防止、環境美化推進の啓発活動を実施した。

開催日時：2023年6月11日（日）

開催拠点：宮城県仙台市荒浜海岸、JR仙台駅ペデストリアンデッキ

※スチール缶リサイクル協会よりご提供



### ②2023年度第2回（第513回）散乱防止・美化キャンペーン

大分市で翌日（2月4日（日））開催される「別府大分毎日マラソン」の大会前一斉清掃イベントに参加し、マラソンコースとなる国道周辺の清掃を行った。清掃活動終了後はJR大分駅前に移動し、ポイ捨て防止、環境美化推進の啓発活動を実施した。

開催日時：2024年2月3日（土）

開催拠点：大分県大分市都町昭和通り、JR大分駅



## (7) 一般社団法人産業環境管理協会（資源リサイクル促進センター）との連携

### ① 夏休みSDGsチャレンジ 3Rポスターを描こう

小中学生とその保護者を対象に講師の先生と3R（リデュース、リユース、リサイクル）ポスターの例を見て、どう感じるか、どんな表現で何を伝えているか、自分の心や頭で感じたこと、考えたことを話しあい、ひらめいた「地球からごみを減らす3Rのアイデアやサステナブルな未来」を、色や形で表現するイベントを開催しました。



開催日時：2023年7月26日（水）午前の部 10:30～ 午後の部 14:30～

開催拠点：GEOC（地球環境パートナーシッププラザ国連大学1階セミナースペース）

開催主体：(一社)産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター、3R活動推進フォーラム

協力：GEOC（地球環境パートナーシッププラザ）

参加者：48名（子ども27名、保護者21名）、兄弟姉妹参加5組

### 3. 実務講座・相談事業

#### (1) 自治体・事業者との勉強会、研修

市町村に資源循環に関する情報提供、意見交換を通じて、自治体相互の交流を図り、広域事業等の新たな展開に役立てると共に、プラスチック資源循環の一層の推進を図ることを目的に「プラスチック資源循環研修会」をハイブリッド方式で開催した。

##### ① プラスチック資源循環研修会 札幌

開催日時：2023年7月14日（水）13:00～16:00

開催拠点：札幌駅前ビジネススペース2 J /オンライン（Teams）

開催主体：札幌市、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、P E Tボトルリサイクル推進協議議会、3 R活動推進フォーラム、（公財）廃棄物・3 R研究財団

協力：北海道

参加者：82名（現地参加者24名）

プログラム：（敬称略）

13:00～13:05 開会挨拶 札幌市環境局環境事業部 部長 柳沼 孝弘

13:05～13:35 講 話 「今後の循環経済と脱炭素の方向は」

公益財団法人廃棄物・3 R研究財団 理事長 梶原成元

13:35～14:05 講 義1 「成長志向型の資源自立経済戦略と今後の資源循環経済政策」

経済産業省産業技術環境局資源循環経済課 総括課長補佐 吉川泰弘

14:05～14:35 講 義2 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法の動向」

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 室長補佐 矢野克典

14:35～15:05 講 義3 「P E Tボトル資源循環の動向」

P E Tボトルリサイクル推進協議会 専務理事 小松郁夫

15:05～15:35 講 義4 「プラスチック資源循環の動向」

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保直紀

15:35～16:00 質疑応答（意見交換会）

16:00 閉会挨拶



## ② プラスチック資源循環研修会 松江

開催日時：2023年11月9日（木）13:00～16:00

開催拠点：島根県立産業交流会館 くにびきメッセ 401会議室/ オンライン（Teams）

開催主体：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、PETボトルリサイクル推進協議会、3R活動  
推進フォーラム、公益財団法人廃棄物・3R研究財団

協力：島根県、松江市

参加者：58名（現地参加者17名）

プログラム：（敬称略）

13:00～13:05 開会挨拶 松江市環境エネルギー部長 花形泰道

13:05～13:35 講話 「脱炭素と循環経済の動向～カーボンニュートラル+サーキュラーエコノミー～」  
公益財団法人廃棄物・3R研究財団 理事長 梶原成元

13:35～14:05 講義1 「成長志向型の資源自律経済戦略と今後の資源循環経済政策」

経済産業省産業技術環境局資源循環経済課 総括課長補佐 吉川泰弘

14:05～14:35 講義2 「プラスチック資源循環法の概要と最近の動向」

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室 係長 喜久川裕起

14:35～15:05 講義3 「PETボトル資源循環の動向」

PETボトルリサイクル推進協議会 専務理事 小松郁夫

15:05～15:35 講義4 「プラスチック容器包装の環境配慮・資源循環の取組み」

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保直紀

15:35～16:00 質疑応答（意見交換会）

16:00 閉会



③ プラスチック資源循環研修会 宇都宮

開催日時：2024年2月22日（木）13:00～16:00

開催拠点：ライトキューブ宇都宮1階 107・108会議室 / オンライン(Teams)

開催主体：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、P E Tボトルリサイクル推進協議会、3 R活動推進フォーラム、公益財団法人廃棄物・3 R研究財団

協力：宇都宮市

後援：栃木県

参加者：92名（現地参加23名）

プログラム：（敬称略）

13:00～13:05 開会挨拶 宇都宮市環境部 廃棄物政策担当 副参事 坂井 晃

13:05～13:35 講話 「脱炭素と循環経済の動向～カーボンニュートラル+サーキュラーエコノミー～」

公益財団法人廃棄物・3 R研究財団 理事長 梶原成元

13:35～14:05 講義1 「成長志向型の資源自律経済戦略と今後の資源循環経済政策」

経済産業省産業技術環境局資源循環経済課 総括課長補佐 吉川泰弘

14:05～14:35 講義2 「プラスチック資源循環法の概要と最近の動向」

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室兼循環型社会推進室 室長補佐 辻景太郎

14:35～15:05 講義3 「P E Tボトル資源循環の動向」

P E Tボトルリサイクル推進協議会 専務理事 小松郁夫

15:05～15:35 講義4 「プラスチック容器包装の環境配慮・資源循環の取組み」

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保直紀

15:35～16:00 質疑応答（意見交換会）

16:00 閉会



## (2) 講師派遣

① 東京二十三区清掃一部事務組合主催

「令和5年度技術講演会」

開催日時：2023年12月8日（金）15:25～16:35

開催拠点：東京区政会館 20階 会議室（201室～203室）（東京都千代田区飯田橋3丁目5-1）

講演：

「3R活動の現状と今後の課題」

3R活動推進フォーラム専任理事 宇仁菅伸介

## 4.広報普及事業

### (1) HPやメルマガを通じた普及啓発活動

① ホーム画面のバナーの更新を積極的に実施

参加者を募集するイベントなど、視覚で惹きつけるような工夫の一つとして行った。以下に本年度の一例を掲載する。

・3R促進ポスターコンクール作品募集時 期間：募集開始～9月締め切りまで



・3R推進全国大会参加者の募集時 期間：募集開始～終了まで



・環境省主催 3R推進地方セミナー（岩手県）の募集時 期間：募集開始～終了まで



## ② 3 R・廃棄物 NEWS 配信（メルマガ）

関係省庁、都道府県、政令指定都市、会員団体等の情報を月2回配信した。

（配信登録者約6500件（2024年3月時点））

配信した直後、イベントの申込数が増加傾向となるので、今後も積極的に配信していく。

## ③ 3 R推進月間用ポスターを通じた3 R啓発

環境省と実施している令和4年度の3 R促進ポスターコンクールの入賞作品を使用した令和5年度版3 R推進月間用ポスターデータを利用できるよう、WEB上及びメールマガジンで広報した。



## ④ 3 R活動推進フォーラムのポスターの作成

3 R活動推進フォーラムの活動内容説明ポスターを作成し、3 R推進全国大会の展示コーナーや容器包装交流セミナーの会場などに掲示した。



## (2) 会員向けサービス

### ① 事務局通信の配信

事業の企画や業務執行の状況等会員に随時報告するための事務局通信を年4回配信した。

3R活動推進フォーラムの情報のほか、3R・循環経済に関する取組や書籍の紹介や環境問題に取り組む企業の取組なども掲載するように内容の充実に努めた。

年度	発行回数
2023年度	4
2022年度	4
2021年度	3
2020年度	2
2019年度	4
2018年度	1

### ② 動画配信

第18回3R活動推進フォーラム理事会総会での細田衛士会長の基調講演を会員向けサイトからYouTube動画で配信を開始した。



## (3) 3R促進ポスターコンクール展示（令和4年度入賞作品）を通じた3R推進普及活動

以下の場所で最優秀作品、優秀作品全16点の展示を行った。

地球環境パートナーシッププラザ（国連大学1階）

開催日時：2023年7月1日（土）～7月29日（火）



#### (4) その他の後援・協賛等

①第17回「小・中学校における環境教育推進支援事業」への後援

主催：スチール缶リサイクル協会

募集期間：2023年6月1日～10月31日

②第18回容器包装3R推進フォーラムへの後援

主催：3R推進団体連絡会

開催日時：令和6年2月2日 13:00～17:30

開催拠点：専売ホール（東京都港区芝5丁目26番30号）

③建設副産物リサイクル広報推進会議への後援

・令和5年度建築副産物リサイクル広報用ポスター

掲出期間：2023年10月1日～2024年9月30日

掲示場所：国土交通省、地方自治体等

・2023建設リサイクル技術発表会

開催日時：2023年12月6日 13:00～16:30

開催拠点：ポートメッセなごや 交流センター4F 第7会議室（愛知県名古屋市港区金城ふ頭2丁目2）

・2023建設リサイクル技術展示会

開催日時：2023年12月6日 10:00～17:00

2023年12月7日 10:00～16:00

開催拠点：ポートメッセなごや 第3展示館（愛知県名古屋市港区金城ふ頭2丁目2）

④第19回産業廃棄物と環境を考える全国大会への協賛

主催：（公社）全国産業資源循環連合会、（公財）日本産業廃棄物処理振興センター、

（公財）産業廃棄物処理事業振興財団

開催日時：令和5年11月10日 15:00～17:00

開催拠点：グランドニッコー東京 台場 パレロワイヤル

⑤ニュースレター「「R」でつながる」編集協力

3R・低炭素社会検定の合格者向けのニュースレター「ニュースレター「R」でつながる」にて編集協力をを行いました。

#### (5) Rマーク表示の啓発普及

3R活動推進フォーラムでは、前身のごみ減量化推進国民会議が平成7年6月に定めた再生紙普及のためのRマーク（再生紙使用マーク）について、環境省が策定した環境表示ガイドラインの表示方法等と併せて広報に努めた。

① ホームページでの普及啓発

Rマークのロゴをダウンロードできるようにするとともに、使用にあたっての留意事項等を掲載。

## ② 問い合わせへの対応

Rマークについて、掲載方法や掲載物に関する電話などの問い合わせ、教材への掲載方法についての問い合わせなどに対応した。3R活動推進フォーラム全体の問合せの3分の1を占めていることから、関心が高いことがわかった。

### 『Rマーク表示例』

平成20年1月に環境省から公表された「環境表示ガイドライン」では、消費者を混乱させないため、Rマークの近辺やウェブサイトなどに、下記表示例のように利用方法について説明文を加えて表示することが望ましいとされている。



この製品は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。

## ③ 利用についての報告・相談例（以下一例）

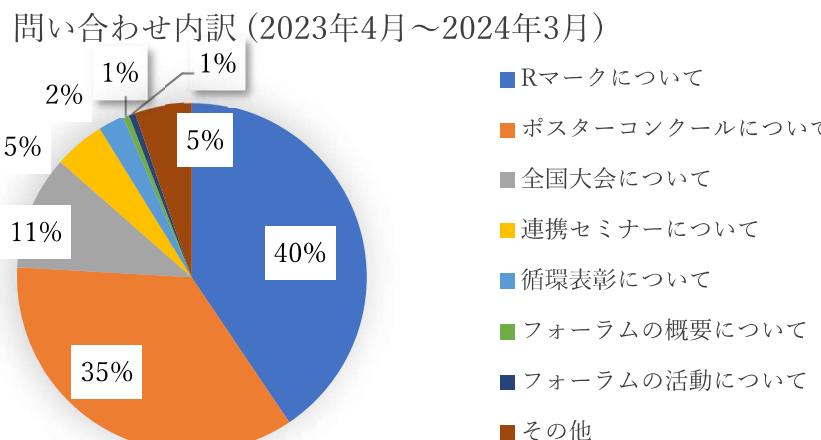
- ・書籍『するるデザイン 持続可能な社会をつくるアイデア』（発行・発売元 パイインターナショナル）への画像掲載
- ・書籍『地球のためにできること② どうする？気候危機』（発行・販売元 株式会社スリーシーズン）への画像掲載
- ・スマートフォンアプリ「ECOチャレンジ」への画像掲載
- ・スマートフォンアプリ「みんなで減CO2（ゲンコツ）プロジェクト」への画像掲載

## (6) その他相談業務

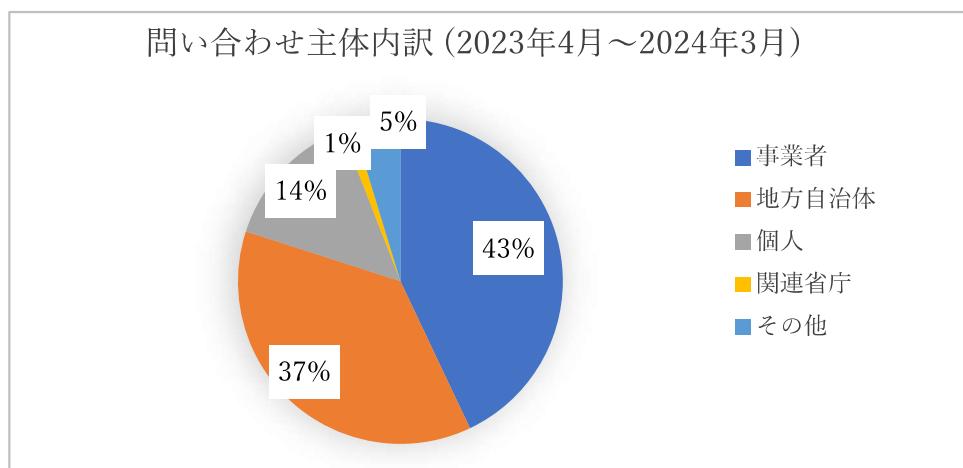
3R活動推進フォーラムへは様々な主体から各種問い合わせがあり、その内訳は以下の通り。

（2023年3月上旬集計）

### ・問い合わせ内容



・問い合わせ主体内訳



(7) メディア掲載

掲載日	掲載媒体	掲載内容
2023年5月	月刊廃棄物	容器包装交流セミナーin鹿児島開催結果記事
2023年6月25日	ウエイスト・マネジメント	理事会総会結果記事
2023年7月5日	環境新聞	理事会総会結果記事
2023年7月5日	環境新聞オンライン	理事会総会結果記事
2023年10月号	月刊廃棄物	3R推進全国大会開催告知
2023年10月5日	ウエイスト・マネジメント	3R推進全国大会開催告知
2023年10月11日	環境新聞	3R推進全国大会開催告知
2023年10月26日	秋田魁新報	3R推進全国大会開催結果
2023年11月5日	ウエイスト・マネジメント	3R推進全国大会開催結果
2023年12月号	月刊廃棄物	3R推進全国大会開催結果
2023年12月号	都市と廃棄物	3R推進全国大会開催結果

## 5. 令和5年度収支決算

### 令和5年度 収支決算書

自 令和5年4月 1日  
至 令和6年3月31日

1.収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備考
1 会 費 収 入	3,800,000	4,000,000	200,000	
(1) 会費収入	3,800,000	4,000,000	200,000	
2 事 業 収 入	3,600,000	3,869,981	269,981	
(1)容器包装交流セミナー開催業務等収入	3,500,000	3,500,000	0	受託業務収入
(2)セミナー等参加費収入	100,000	0	△ 100,000	セミナー参加費、講師派遣等
(3)研修会負担金収入	0	369,981	369,981	プラ資源循環研修会等分担金
3 利 息 収 入	30	36	6	
(1)普通預金利息収入	30	36	6	
当 期 収 入 合 計	7,400,030	7,870,017	469,987	
前 期 繰 越 収 支 差 額	2,216,458	2,216,458	0	
収 入 合 計	9,616,488	10,086,475	469,987	

## 2.支出の部

科 目	予算額	決算額	差異	備考
1 普 及 啓 発 費	7,350,000	4,726,512	△ 2,623,488	
(1) 企画等運営費	605,000	693,502	88,502	理事会、総会等関係経費
1) 謝金	20,000	190,000	170,000	
2) 旅費	180,000	16,990	△ 163,010	
3) 通信運搬費	10,000	1,529	△ 8,471	
4) 会議費	220,000	126,621	△ 93,379	
5) 貸借料	130,000	343,420	213,420	
6) 調査旅費	40,000	14,942	△ 25,058	理事会事前打合せ
7) 雑費	5,000	0	△ 5,000	
(2) 3 R 推進大会費	330,000	229,958	△ 100,042	全国大会開催関係経費
1) 謝金	0	0	0	
2) 印刷製本費	0	792	792	
3) 通信運搬費	5,000	0	△ 5,000	
4) 会議費	50,000	19,360	△ 30,640	
5) 消耗品費	5,000	0	△ 5,000	
6) 貸借料	10,000	0	△ 10,000	
7) 調査旅費	200,000	145,402	△ 54,598	
8) 広告宣伝費	50,000	49,500	△ 500	全国大会広告料
9) 雑費	10,000	14,904	4,904	
(3) セミナー等開催費	5,240,000	3,432,689	△ 1,807,311	セミナー、研修等開催経費
1) 謝金	750,000	475,000	△ 275,000	セミナー、研究発表会講師謝金
2) 旅費	710,000	304,974	△ 405,026	講師等旅費
3) 印刷製本費	1,500,000	723,575	△ 776,425	
4) 通信運搬費	100,000	261,160	161,160	
5) 消耗品費	150,000	97,707	△ 52,293	
6) 会議費	100,000	31,000	△ 69,000	
7) 貸借料	900,000	630,705	△ 269,295	セミナー等会場借料
8) 調査旅費	950,000	872,268	△ 77,732	
9) 雑費	80,000	36,300	△ 43,700	
(4) 広報活動費	1,175,000	370,363	△ 804,637	美化キャンペーン等
1) 謝金	80,000	0	△ 80,000	
2) 印刷製本費	90,000	116,400	26,400	報告書等印刷発送 他
3) 通信運搬費	250,000	1,221	△ 248,779	資料送付代
4) 消耗品費	80,000	5,280	△ 74,720	
5) 貸借料	80,000	0	△ 80,000	
6) 調査旅費	250,000	58,962	△ 191,038	美化キャンペーン参加旅費等
7) 広告宣伝費	70,000	38,500	△ 31,500	新聞広告掲載料
8) 人材派遣費	100,000	0	△ 100,000	
9) 会費	150,000	150,000	0	こどもエコクラブ等会費
10) 雑費	25,000	0	△ 25,000	
2 管理費	2,156,488	2,111,294	△ 45,194	
1) 旅費	40,000	30,751	△ 9,249	
2) 印刷製本費	230,000	155,041	△ 74,959	
3) 通信運搬費	350,000	523,586	173,586	電話、HPサポート費等
4) 会議費	10,000	0	△ 10,000	
5) 消耗品費	60,000	0	△ 60,000	
6) 光熱水材費	90,000	61,466	△ 28,534	賃借料等負担金
7) 貸借料	1,320,000	1,310,851	△ 9,149	
8) 租税公課	3,000	2,203	△ 797	収入印紙代等
9) 雑費	53,488	27,396	△ 26,092	
当期支出合計	9,506,488	6,837,806	△ 2,668,682	
当期収支差額	△ 2,106,458	1,032,211	3,138,669	
次期繰越収支差額	110,000	3,248,669	3,138,669	

【注】上記の収入・支出には、フォーラムの活動に要した経費のうち、公益財団法人廃棄物・3R研究財団が負担したもの(人件費等)は含まれていない。

## 令和5年度 貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>		<b>【負 債】</b>	
現 金	192,057	未 払 金	2,595,190
普通預金	5,457,227	<b>【正味財産】</b>	
未 収 金	194,575	正 味 財 産	3,248,669
		(うち当期正味財産増加額)	(1,032,211)
<b>資 产 合 计</b>	<b>5,843,859</b>	<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>5,843,859</b>

### Ⅲ 3R活動推進フォーラムについて

#### 1. 「3R活動推進フォーラム」の沿革～ごみ減量化から3Rへ～

「3R活動推進フォーラム」の前身は、平成4年(1992)に設立された「ごみ減量化推進国民会議」にあります。平成3年(1991)10月、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」が改正され、従来からのごみの適正処理に加え、排出抑制、分別、保管、再生（リサイクル）等による「ごみ減量化」の推進が大きな柱（法目的）として加えられ、同時に国民、事業者、国及び地方公共団体にあって、ごみ減量化の積極的推進が求められることとなりました。そのため、「ごみ減量化」を強力に推進するため、幅広い国民運動を展開する機関として、平成4年(1992)9月、「ごみ減量化推進国民会議」が(社)全国都市清掃会議を事務局として設立されました。その後、同会議では、再生紙利用促進、自動販売機の在り方、包装について具体的な検討作業を精力的に行ってています。その結果、平成7年(1995)6月には、再生紙使用マーク（Rマーク）の設定、「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」の制定などが行われてきました。

平成12年(2000)6月、「循環型社会形成推進基本法」が公布されました。21世紀を迎える持続可能な社会を構築するためには、「ごみゼロ型社会」すなわち「循環型社会」への転換を推進することが強く求められることとなりました。そのため、平成14年(2002)7月、「ごみ減量化推進国民会議」から、更に一步踏み込んだ「ごみゼロ型社会づくり」（循環型社会づくり）の活動へと進むべく、「ごみゼロパートナーシップ会議」へと改称されました。

平成17年(2005)4月、我が国は「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」（ゴミゼロ国際化行動計画）を発表し、国内での循環型社会づくりを基礎として3Rの国際的推進に主導的役割を果すことを世界に宣言しました。こうした国際的な動きを踏まえ、我が国の循環型社会づくりの一層の加速化と地球規模での循環型社会の形成に寄与することが求められてきました。そのため、3Rに関する社会的取組や先進的技術による取組をさらに進めるほか、会員相互の連携した活動の展開など、循環型社会への変革を強く意識した3R活動を一層推進するため、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ、平成18年(2006)1月、「3R活動推進フォーラム」（会長：加藤三郎環境文明研究所代表）が発足しました。そして、平成19年(2007)5月、(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団（平成23年12月に（公財）廃棄物・3R研究財団に移行）に事務局が移り、現在に至っています。

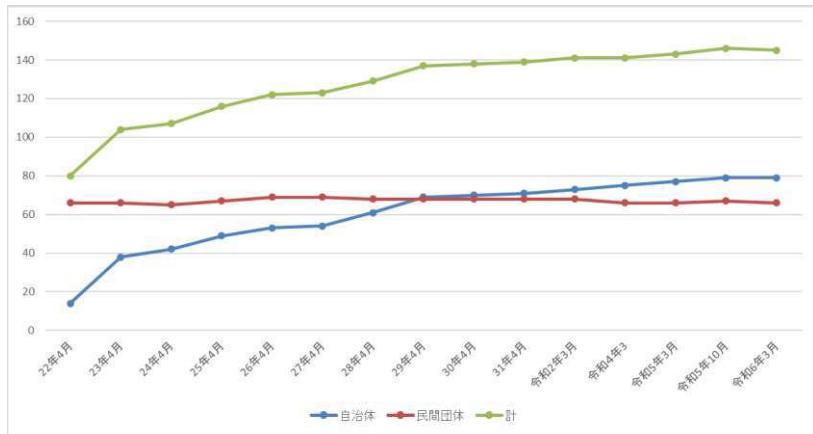
##### ・歴代会長

初代	平成18年1月から平成18年5月	環境文明研究所代表	加藤三郎氏
第2代～第3代	平成18年5月から平成22年4月	東京大学総長	小宮山宏氏
第4代～第5代	平成22年4月から平成26年5月	東京大学大学院教授	武内和彦氏
第6代～第10代	平成26年5月から現在	東海大学副学長	細田衛士氏

##### ・会員数

会員は、自治体会員79、民間会員66、合わせて145会員（令和6年3月現在）

【会員数推移表】 ※令和元年度から年度末の会員数とした。



## 2. 3R活動推進フォーラム事業活動

3R活動推進フォーラムは、3Rに関する以下の事業等を実施しています。

- ① 3Rに関する研鑽・啓発
- ② 3Rに関する先進的事業の実施・支援
- ③ 3Rに関する調査研究の実施・支援
- ④ 3Rに関する国内外の情報の収集、提供など

また、第四次循環型社会形成推進基本計画等を踏まえ、これらの計画が求めている循環型社会の形成に向けて、各主体が連携・協働した取組に貢献すべく、以下の事業等を実施することとしています。

### (1) 3R推進全国大会及び関連事業

3R推進全国大会は、国民・事業者・行政が一堂に会し、循環型社会の形成に関するそれぞれの知識や経験を交換するとともに、参加者一人一人が自らのライフスタイルを見直す機会を提供し、ごみの減量・再資源化などの3R推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組を推進することを目的として、環境省と3R活動推進フォーラム、自治体等の共同で開催しています。

### (2) 連携・協働事業

フォーラムの会員団体などとのセミナー等の共同開催や3R推進地方大会等への協力・後援等による連携を強化し、3R活動の推進事業の推進、拡大に努めます。

### (3) 実務講座・相談事業

自治体及び会員団体を対象に3R・資源循環に関する研修・学習相談事業のニーズを把握し、研修セミナーを実施していきます。

### (4) 広報普及事業

フォーラムの活動状況を年次報告書などにとりまとめ広報に努めるとともに、メルマガ「3R・廃棄物ニュース」や「事務局通信」の配信、ホームページ、展示会への出展等を通して、広く3Rの推進を啓発・普及しています。また、ガイドラインに沿ったRマーク表示の啓発・普及を行っています。

### 3. 3R活動関係年表

年	3 R・循環 関連法など	活動の歴史	経済・社会情勢
1970	廃棄物処理法の公布		
1971	環境庁の設置		変動相場制へ
1986	ごみ処理施設構造指針の改正		
1988	廃棄物最終処分場指針の改正		
1989	5月 ヘルシンキ宣言採択「フロンを 2000年までに全廃」 12月 鈴木都知事、都議会でゴミの非常事 態を宣言	8月 財団法人廃棄物研究財団設立	消費税施行、税率 3% 米ソ首脳「マルタ 会談」東西冷戦終 結
1990	12月「ダイオキシン類発生防止等ガイ ドライン」(旧ガイドライン)の策定	3月 廃棄物学会設立	株価暴落、バブル 景気の崩壊
1991	4月「再生資源有効利用促進法」公布 10月「廃棄物処理法」改正 法の目的にごみの減量化・発生抑制、再 生(リサイクル)の推進が導入		湾岸戦争
1992	6月 地球サミット、リオ・デジャネイ ロで開催	9月 <u>「ごみ減量化推進国民会議」</u> <u>発足 ((社)全国都市清掃会議 事務 局)</u> 第1回ごみ減量化推進全国大会(岡 山県、岡山市)	
1993	11月「環境基本法」公布	11月 第2回ごみ減量化推進全国 大会(東京都)	
1994	12月「環境基本計画※」閣議決定	5月ごみ減量化推進国民会議、「再生 紙利用促進のための具体的行動目 標」採択 9月 第3回ごみ減量化推進全国大 会(大阪府、大阪市)	
1995	6月「容器包装リサイクル法」公布 「再生紙使用マーク」(Rマーク)設定 「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施 要領」制定	6月 ごみ減量化推進国民会議、 「包装・容器の減量化に関する指 針」採択 9月 第4回ごみ減量化推進全国大 会(千葉県、千葉市)	阪神・淡路大震災

1996		10月ごみ減量化推進国民会議、「PETボトルのあり方についての検討委員会報告書」発表 第5回ごみ減量化推進全国大会(福岡県、福岡市、北九州市)	
1997	1月「ごみ処理におけるダイオキシン類発生防止ガイドライン」(新ガイドライン)	6月ごみ減量化推進国民会議、「再生紙利用促進のガイドライン」採択 10月第6回ごみ減量化推進全国大会(宮城県、仙台市)	金融機関の連鎖的破綻
1998	6月「家電リサイクル法」公布 10月「地球温暖化対策法」公布	6月ごみ減量化推進国民会議、再生紙利用促進のガイドライン(改正)採択 10月第7回ごみ減量化推進全国大会(兵庫県、神戸市)	
1999	7月ダイオキシン類対策特別措置法公布	10月第8回ごみ減量化推進全国大会(埼玉県、浦和市)	
2000	6月「循環型社会形成推進基本法」公布 「廃棄物処理法等」の改正 「再生資源利用促進法」の改正 「建設資材リサイクル法」「グリーン購入法」 「食品リサイクル法」公布 12月「第2次環境基本計画」閣議決定	10月第9回ごみ減量化推進全国大会(広島県、広島市)	
2001	1月中央省庁再編により環境省が廃棄物・リサイクル行政を所管 4月資源の有効な利用の促進に関する法律の施行	10月第10回ごみ減量化推進全国大会(北海道、札幌市)	9.11アメリカ同時多発テロ
2002	7月「自動車リサイクル法」公布	7月第10回総会、「ごみゼロパートナーシップ会議」に改称 11月第1回ごみゼロ推進全国大会(徳島県、徳島市)	
2003	3月「循環型社会形成推進基本計画」公表	10月第2回ごみゼロ推進全国大会(富山県、富山市)	
2004	6月G8シーアイランドサミット「神戸3R行動	10月第3回ごみゼロ推進全国大会(静岡県、静岡市)	

	「計画」小泉首相が3Rイニシアティブを提唱		
2005	2月 「京都議定書」発効 4月 「3Rイニシアティブ閣僚会合」を東京で開催 「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」(ゴミゼロ国際化行動計画)発表 6月 「クールビズ」開始	10月 第4回ごみゼロ推進全国大会(長崎県、佐世保市)	「愛・地球博」愛知県で開幕
2006	3月 「3Rイニシアティブ高級事務レベル会合」を東京で開催 4月 「第3次環境基本計画」閣議決定	1月 「ごみゼロパートナーシップ會議」を拡充発展させ <u>「3R活動推進フォーラム」</u> 発足(事務局は(社)全国都市清掃會議(現(公社)全国都市清掃會議)) 初代会長 加藤三郎環境文明研究所代表が就任 5月 2代目会長に小宮山宏東京大学総長が就任 10月 第1回3R推進全国大会(愛知県、名古屋市)	
2007	5月「ごみ不法投棄監視ウィーク」がスタート 6月 「21世紀環境立国戦略」閣議決定 「3Rを通じた持続可能な資源循環」を推進 G8ハイリゲンダム・サミット地球温暖化問題	5月 事務局が(社)全国都市清掃會議(現(公社)全国都市清掃會議)から <u>(財)廃棄物研究財団(現(公財)廃棄物・3R研究財団)</u> に移る 10月 第2回3R推進全国大会(福岡県、北九州市)	
2008	3月 「循環型社会形成推進基本計画」改訂 7月 G8北海道洞爺湖サミット	10月 第3回3R推進全国大会(山形県、山形市)	
2009		10月 第4回3R推進全国大会(千葉市)	
2010		4月 会長に武内和彦東京大学大学院教授が就任 11月 第5回3R推進全国大会(佐賀県、佐賀市)	

2011	8月 東日本大震災により生じた廃棄物の処理の特例に関する法律公布 8月「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」公布	10月 第6回3R推進全国大会（京都市） 12月 （公財）廃棄物・3R研究財団設立	東日本大震災
2012	4月「第4次環境基本計画」閣議決定 8月 「特定産業廃棄物特別措置法」一部改正法律公布 8月 「小型家電リサイクル法」公布	10月 第7回3R推進全国大会（東京都内）	
2013	5月 「第三次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定	10月 第8回3R推進全国大会（栃木県）	
2014		5月 会長に細田衛士慶應大学経済学部教授が就任 10月 第9回3R推進全国大会（相模原市）	消費税5%から8%に引き上げ
2015	11月第21回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）パリ協定	11月 第10回3R推進全国大会（福井県）	
2016	3月「特定家庭用機器廃棄物回収率目標達成アクションプラン」策定 5月 G7富山環境大臣会合 5月 G7伊勢志摩サミット	10月 全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会設立 10月 第11回3R推進全国大会（徳島県）	熊本地震
2017		10月 第12回3R推進全国大会（沖縄県）	
2018	4月 「第五次環境基本計画」閣議決定 6月 「第四次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定	10月 第13回3R推進全国大会（富山県）	
2019	5月 「食品ロス削減推進法」公布 「プラスチック資源循環戦略」策定 6月 G20軽井沢環境大臣会合 6月 G20大阪サミット	10月 第14回3R推進全国大会（新潟市）	消費税10%
2020	7月 レジ袋の有料化	10月 第15回3R推進全国大会（和歌山県を延期）	新型コロナウイルス感染症拡大
2021	6月 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」公布	10月 第15回3R推進全国大会（和歌山県）	静岡県熱海市で土石流
2022	4月 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」施行	10月 第16回3R推進全国大会（オンライン・東京都内）	ロシア軍のウクライナ侵攻

	9月「第四次循環型社会形成推進基本計画」の第2回点検及び循環経済工程表の策定 10月「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」及び官民連携協議会発足		
2023	2月「GX実現に向けた基本方針」閣議決定	10月 第17回3R推進全国大会(秋田県)	トルコ・シリア大地震
2024		10月 第18回3R推進全国大会(埼玉県)予定	能登半島地震

#### 4. 令和5年度事業年間スケジュール

月	理事会・総会、企画運営委員会の開催、セミナー開催、広報等	表彰関係事務、連携事業への協力、後援等
4月	□事務局通信No74発行	□令和5年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰推薦依頼 □連携・協働セミナー、実務講座等の開催についての意向調査
5月	□3R活動推進フォーラム活動内容説明ポスターを作成	□令和5年度全国都市清掃会議定時総会出席(展示コーナーへの出展) □令和5年度3R促進ポスターコンクールの募集開始
6月	□3R活動推進フォーラム第18回理事会・総会開催 □同 細田会長講演動画配信開始	□2023年度第1回散乱防止・美化キャンペーン(仙台)参加 □スチール缶リサイクル協会主催の第17回「小・中学校における環境教育推進支援事業」への後援 □持続可能環境センター(3R・低炭素社会検定)総会・運営委員会
7月	□第25回 容器包装交流セミナー in 札幌 □令和5年度 プラスチック資源循環研修会 札幌 □夏休みSDGsチャレンジ「3Rポスターを描こう」 □事務局通信No75発行 □3R活動推進フォーラム第1回企画・運営委員会	□3R促進ポスターコンクール展示(地球環境パートナーシッププラザ)

8月	□第17回3R推進全国大会第1回実行委員会	
9月	□事務局通信No76発行	<input type="checkbox"/> 3R促進ポスターコンクール1次審査会 <input type="checkbox"/> 3R促進ポスターコンクール2次審査会 <input type="checkbox"/> 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰選考委員会 <input type="checkbox"/> 持続可能環境センター運営委員会参加(WEB)
10月	<input type="checkbox"/> 第17回3R推進全国大会第2回実行委員会 <input type="checkbox"/> 第17回3R推進全国大会(秋田県) 「循環型社会の実現に向けた共創とイノベーション～2050年カーボンニュートラルの実現に向けて～」 <input type="checkbox"/> 廃棄物・3R研究財団&3R活動推進フォーラム年次報告会で報告	<input type="checkbox"/> 令和5年度建設副産物リサイクル広報用ポスター後援 <input type="checkbox"/> 3R・低炭素社会検定試験対策講習会の運営協力(会場貸出・補助)
11月	<input type="checkbox"/> 2023年環境省主催3R推進地方セミナー(さいたま市)「さいたま市の食品ロス削減に向けた取組」 <input type="checkbox"/> 第26回容器包装交流セミナー in 松江 <input type="checkbox"/> 令和5年度プラスチック資源循環研修会松江	<input type="checkbox"/> 第16回3R・低炭素社会検定試験の運営協力(監督他) <input type="checkbox"/> (公社)全国産業資源循環連合会ほか主催による第19回「産業廃棄物と環境を考える全国大会」への協賛
12月	<input type="checkbox"/> 3R活動推進フォーラム第2回企画・運営委員会(書面決議) <input type="checkbox"/> 東京二十三区清掃一部事務組合令和5年度技術講演会	<input type="checkbox"/> 建設副産物リサイクル広報推進会議主催による「2023建設リサイクル技術発表会・技術展示会」への後援
1月	<input type="checkbox"/> 第17回3R推進全国大会第3回実行委員会 <input type="checkbox"/> 2023年度環境省主催3R推進地方セミナー(岩手県)「プラスチックリサイクルの取組」 <input type="checkbox"/> 事務局通信No77発行	

2月	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 【会員向け】循環・3Rリレーセミナー「異業種連携による資源循環の取組」</li> <li><input type="checkbox"/> 第27回 容器包装交流セミナー in 宇都宮</li> <li><input type="checkbox"/> 令和5年度 プラスチック資源循環研修会 宇都宮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 第513回散乱防止・美化キャンペーン（大分）参加</li> <li><input type="checkbox"/> 3R推進団体連絡会主催「第18回容器包装3R推進フォーラム」への後援</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 3R活動推進フォーラム第3回企画・運営委員会</li> <li><input type="checkbox"/> 3R活動推進フォーラム第2回理事会（書面決議）</li> <li><input type="checkbox"/> 3R活動推進フォーラム第2回総会（書面決議）</li> </ul>	

(備考)

- ・以上その他、メールマガジン「廃棄物・3R NEWS」を月2回配信、ニュースレター「「R」でつながる」を月1回編集協力

## 5. 3R活動推進フォーラム規約等 資料

### 3R活動推進フォーラム 規約

平成18年	5月31日	総会決定
平成19年	5月22日	一部改正
平成21年	5月12日	一部改正
平成22年	4月28日	一部改正
平成26年	5月23日	一部改正
平成29年	5月22日	一部改正

#### 第1章 総 則

(名称)

第1条 本団体は、3R活動推進フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(所在地)

第2条 フォーラムは、事務所を東京都内に置く。

#### 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 フォーラムは、国民、事業者、行政、研究機関等が一体となって発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の3Rによる循環型社会づくりを推進することを目的とする。

(事業)

第4条 フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 3Rに関する研鑽・啓発
- (2) 3Rに関する先進的事業の実施・支援
- (3) 3Rに関する調査研究の実施・支援
- (4) 3Rに関する国内外の情報の収集、提供
- (5) 前4項に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

#### 第3章 会 員

(会員)

第5条 フォーラムの会員は、フォーラムの目的に賛同して入会した団体をもって構成する。

(入会)

第6条 フォーラムの会員になろうとする団体は、フォーラムの趣旨に賛同し、入会申込書の提出をもって会員とする。

(負担金)

第7条 会員は、総会において別に定めるところにより、負担金を納入しなければならない。

2 自治体会員は負担金を免除する。

(退会)

第8条 会員がフォーラムを退会しようとするときは、その旨を届け出なければならない。

#### 第4章 組織及び運営

(役員)

第9条 フォーラムに、次の役員を置く。

理事 30名以内

監事 2名

2 理事及び監事は総会において選任する。

- 3 理事のうち1名を会長、5名以内を副会長とし、それぞれ総会において選出する。
- 4 会長は、フォーラムを代表し、会務を総括する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 理事のうち、1名を専任理事とし、総会において選出する。
- 7 専任理事は、事務局を総括する。
- 8 監事は、フォーラムの会計を監査する。
- 9 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

(顧問)

第10条 本会に顧問（若干名）をおくことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が指名する。顧問の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

- 2 顧問は、会長の求めに応じて本会の運営に関して助言をする。

(総会及び理事会)

第11条 フォーラムの議決機関として、総会及び理事会を置く。

- 2 総会は会長が招集し、役員の任免、事業計画及び予算の決定、事業報告及び決算の承認、その他理事会が必要と認めた事項を審議し、議決する。
- 3 理事会は、会長が招集し、総会に付議すべき事項のほか、フォーラムの運営に関する重要な事項を議決する。

(企画・運営委員会)

第12条 フォーラムの組織、制度、事業計画について審議するため、企画・運営委員会を設置することができる。

- 2 企画・運営委員会の運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

(事業計画及び予算)

第13条 フォーラムの事業計画及び予算は、会長が作成し、理事会及び総会の議決を経なければならぬ。ただし、次の総会までの期間に係る事務局運営費については、総会において事後承認することができる。

(事業報告及び決算)

第14条 フォーラムの事業報告及び決算は、毎会計年度終了後、3ヶ月以内に会長が事業報告書、収支決算書として作成し、監事の監査を経て理事会及び総会の承認を得なければならない。

(会計年度)

第15条 フォーラムの会計年度は1年とし、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第16条 フォーラムの事務を処理するため、事務局を（公財）廃棄物・3R研究財団に置く。

- 2 事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

## 第5章 雜 則

(委任)

第17条 この規約の施行について必要な事項については、理事会の決定するところによる。

## 附 則

この規約は、平成18年5月31日から施行する。

この規約の一部改正は、平成19年5月22日から施行する。

この規約の一部改正は、平成21年5月12日から施行する。

## 6. 役員一覧

### 3R活動推進フォーラム 役員一覧(令和6年3月時点)敬称略

会長	細田 衛士	東海大学副学長 政治経済学部経済学科教授、慶應義塾大学名誉顧問
副会長	崎田 裕子	NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット顧問
副会長	梶原 成元	公益財団法人廃棄物・3R研究財団理事長
(理事 五十音順)		
専任理事	宇仁菅伸介	公益財団法人廃棄物・3R研究財団専務理事
理事	荒川 隆	一般財団法人食品産業センター理事長
理事	大迫 政浩	一般社団法人廃棄物資源循環学会会長
理事	岡村 隆吉	一般社団法人日本経済団体連合会環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部会長代行
理事	金高 隆一	公益社団法人全国都市清掃会議会長
理事	川上 景一	一般財団法人家電製品協会専務理事
理事	佐藤 直良	建設副産物リサイクル広報推進会議会長
理事	山条 忠文	一般社団法人日本環境保全協会会長
理事	永井 良一	公益社団法人全国産業資源循環連合会会長
理事	藤村コノエ	NPO 法人環境文明21 代表理事
理事	松尾 嘉朗	一般社団法人全国清涼飲料連合会会長
理事	三井 弘樹	一般社団法人全国清掃事業連合会会長
(監事 五十音順)		
監事	金澤 貞幸	公益社団法人全国都市清掃会議専務理事
監事	久保 直紀	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会専務理事
(顧問 五十音順)		
顧問	加藤 三郎	株式会社環境文明研究所代表取締役所長
顧問	庄子 幹雄	マサチューセッツ工科大学客員教授

## 7. 企画・運営委員会委員一覧

### 企画・運営委員会委員一覧(令和6年3月時点) 敬称略 50音順

浅利 美鈴	総合地球環境学研究所教授
有馬 聰	一般財団法人家電製品協会環境部長
上原 麻子	大阪市環境局事業部家庭ごみ減量課長
鬼沢 良子	N P O 法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 【委員長】
久保 直紀	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会専務理事
佐藤 勇一	川口市環境部資源循環課長
志村 公久	東京都環境局資源循環推進部長
高橋 宏郁	スチール缶リサイクル協会専務理事
田中 希幸	ガラスびん 3 R 促進協議会理事・事務局長
中石 一弘	株式会社エックス都市研究所常務取締役環境エンジニアリング事業本部長
畠中 秀人	建設副産物リサイクル広報推進会議幹事長
羽田野雅司	松本市環境エネルギー部長
日浦 朋子	公益社団法人全国産業資源循環連合会事業部長兼調査部長
三浦 佳子	一般社団法人日本冷凍食品協会広報部長（消費生活コンサルタント）
百瀬 紋乃	日本生活協同組合連合会社会・地域活動推進部
山本 耕平	株式会社ダイナックス都市環境研究所【副委員長】
山脇 敦	公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団調査認証チーム部長
柚山 義人	一般社団法人日本有機資源協会専務理事

## 8. 会員一覧

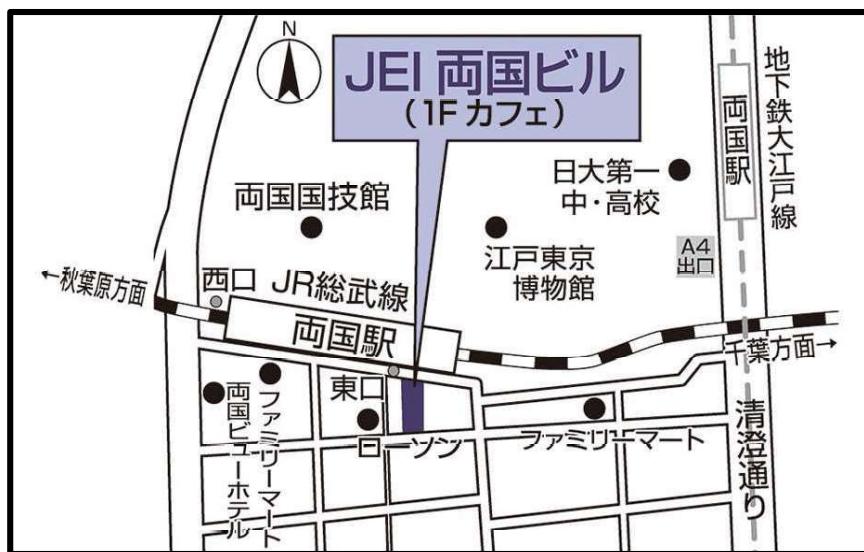
会員一覧（令和6年3月時点）自治体会員79 民間団体会員66 計145

### 3R活動推進フォーラム 会員一覧

2024.3.31現在

No.	団体名	No.	団体名	No.	団体名
<b>自治体会員</b>					
1	北海道	50	横浜市	19	(公財)産業廃棄物処理事業振興財団
2	青森県	51	川崎市	20	(一社)持続可能社会推進コンサルタント協会
3	岩手県	52	相模原市	21	(NPO)持続可能な社会をつくる元気ネット
4	宮城県	53	新潟市	22	(一財)食品産業センター
5	秋田県	54	大阪市	23	(公社)食品容器環境美化協会
6	山形県	55	神戸市	24	スチール缶リサイクル協会
7	福島県	56	北九州市	25	石油連盟
8	茨城県	57	熊本市	26	全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
9	栃木県	58	新宿区	27	全国環境整備事業協同組合連合会
10	群馬県	59	文京区	28	全国牛乳容器環境協議会
11	埼玉県	60	墨田区	29	(公社)全国産業資源循環連合会
12	千葉県	61	目黒区	30	(一社)全国浄化槽団体連合会
13	東京都	62	渋谷区	31	全国生活学校連絡協議会
14	かながわ3R推進会議	63	豊島区	32	(一社)全国清掃事業連合会
15	新潟県	64	荒川区	33	(一社)全国清涼飲料連合会
16	富山県	65	練馬区	34	全国女性団体連絡協議会
17	石川県	66	足立区	35	(公社)全国都市清掃会議
18	福井県	67	葛飾区	36	(一社)全国容器循環協議会
19	山梨県	68	函館市	37	(公財)全国老人クラブ連合会
20	長野県	69	岩見沢市	38	電気事業連合会
21	岐阜県	70	川口市	39	中間貯蔵・環境安全事業(株)
22	静岡県	71	船橋市	40	(一社)日本環境衛生施設工業会
23	ごみゼロ社会推進あいち県民会議	72	昭島市	41	(一財)日本環境衛生センター
24	三重県	73	東大和市	42	(公財)日本環境協会
25	滋賀県	74	大井町	43	(公財)日本環境整備教育センター
26	京都府	75	松本市	44	(一社)日本環境保全協会
27	大阪府	76	豊田市	45	JMIA 日本鉱業協会
28	兵庫県	77	東海市	46	日本再生資源事業協同組合連合会
29	奈良県	78	佐賀市	47	(公財)日本産業廃棄物処理振興センター
30	和歌山県	79	指宿市	48	(一社)日本自動車工業会
31	鳥取県	<b>計79会員</b>		49	(一財)日本消費者協会
32	島根県	<b>民間団体会員</b>		50	(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
33	岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議	1	(公財)あしたの日本を創る協会	51	日本生活協同組合連合会
34	広島県	2	アルミ缶リサイクル協会	52	(一社)日本即席食品工業協会
35	山口県	3	大阪湾広域臨海環境整備センター	53	(一社)日本鉄鋼連盟
36	徳島県	4	(一財)家電製品協会	54	日本バイオプラスチック協会
37	香川県	5	紙製容器包装リサイクル推進協議会	55	(一社)日本パン工業会
38	愛媛県	6	ガラスびん3R促進協議会	56	(公社)日本PTA全国協議会
39	高知県	7	(一社)環境衛生施設維持管理業協会	57	(一社)日本百貨店協会
40	福岡県	8	(NPO)環境技術支援ネットワーク	58	(NPO)日本ファイバーリサイクル推進協会
41	佐賀県	9	(一財)環境事業協会	59	(一社)日本有機資源協会
42	長崎県	10	(公社)環境生活文化機構	60	(一社)廃棄物資源循環学会
43	熊本県	11	(NPO)環境文明21	61	(公財)廃棄物・3R研究財団
44	大分県	12	(一社)京都府産業廃棄物3R支援センター	62	(一社)パソコン3R推進協会
45	宮崎県	13	(NPO)グリーンコンシューマー東京ネット	63	びん再使用ネットワーク
46	鹿児島県	14	建設廃棄物協同組合	64	(一社)プラスチック循環利用協会
47	沖縄県	15	建設副産物リサイクル広報推進会議	65	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
48	札幌市	16	国立研究開発法人国立環境研究所	66	PETボトルリサイクル推進協議会
49	さいたま市	17	ごみ減量ネットワーク	<b>計66会員</b>	
		18	(NPO)最終処分場技術システム研究協会	<b>会員 合計145団体</b>	

## 《3 R 活動推進フォーラム事務局案内図》



JR両国駅東口 徒歩 1 分      都営大江戸線両国駅A4出口 徒歩 5 分

## 3 R 活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

年次報告書  
令和 5 年度版(2023 年度版)

発 行：3 R・資源循環推進フォーラム(旧 3 R 活動推進フォーラム)

発行年月：令和 6 年 6 月

所 在 地：〒130-0026

東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F

公益財団法人廃棄物・3R 研究財団 内

TEL 03-6908-7311 FAX 03-5638-7164

E-mail : [jimukyoku@3r-forum.jp](mailto:jimukyoku@3r-forum.jp)

URL : <https://3r-forum.jp/>

3 R 活動推進フォーラム年次報告書は、2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月末まで）の事業を掲載したものです。



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

この製品は、古紙パルプ配合率 60%の再生紙を使用しています。このマークは、3 R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。